

**北薩・伊佐地区埋蔵文化財
分布調査報告書 (V)**

東町・高尾野町

平成7年度

1996年3月

鹿児島県教育委員会

序 文

北薩・伊佐地区（一部日置地区を含む）の埋蔵文化財分布調査は、平成3年度から平成11年度までの9ヶ年計画で県教育委員会が実施しており、新たに発見された遺跡については、埋蔵文化財保護行政の基礎資料として、諸開発事業との調整に大いに活用されているところ です。

近年の各種開発事業の増大に伴い、埋蔵文化財発掘調査については、事務処理の迅速化や発掘調査の円滑化が、時代の要請となっております。本年度は総務庁の「芸術文化の振興に関する行政監察結果報告書」により、発掘調査の迅速化、事務の簡素化・適正化、発掘調査に係る費用負担の明確化などで勧告がなされました。文化庁においては、発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究委員会の報告がなされ、埋蔵文化財保護体制の整備充実について、改善方策が掲示されました。

県教育委員会では、これらの時代の要請に適切に対応するため継続的な埋蔵文化財分布調査の実施とあわせて、県立埋蔵文化財センターの設置、県立埋蔵文化財センターでの長期研修による市町村専門職員の養成等、埋蔵文化財体制の充実に努めてまいりましたが、総務庁の勧告や文化庁の改善方法を指針として、今後とも具体的な施策を講じたいと考えております。市町村教育委員会におかれは、こうした時代の趨勢を明確に把握されるとともに、最も基礎資料たる遺跡地図の整備・点検と遺跡の周知に努められるようお願いいたします。

本報告は東町と高尾野町の20遺跡についてとりまとめたもので、調査に協力していただいた関係町教育委員会並びに関係者各位に対し深く感謝の意を表します。

平成8年3月

鹿児島県教育委員会

教育長 有 馬 学

報告書抄録

ふりがな	ほくさつ いさちくまいぞうぶんかざいぶんぶちようさほうこくしょ							
書名	北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査報告書 (V)							
副書名								
巻次								
シリーズ名	鹿児島県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	71							
編著者名	堂込秀人							
編集機関	鹿児島県教育委員会							
所在地	〒892 鹿児島県鹿児島市山下町14番50号 TEL 0992-26-8111							
発行年月日	西暦 1996年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 (対象)	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村 遺跡番号	〃〃	〃〃				
東早尾掛遺跡 他6遺跡	東町鷹巣 〃 山門野	464031	14	32° 18'	130° 08'	1995年	500ha	分布調査
)))	11月28日		
			21	32° 05'	130° 12'	12月7日		
松ヶ野遺跡 他12遺跡	高尾野町高尾野 〃 唐笠木 〃 江内 〃 紫引	464023	21	32° 00'	130° 13'	1995年	500ha	分布調査
)))	12月11日		
			34	32° 08'	130° 19'	～21日		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
東早尾掛遺跡 他6遺跡	散布地	縄文 ～中世	_____	土器片・黒曜石剥片 青磁片	表採資料			
松ヶ野遺跡 他12遺跡	散布地	縄文 ～中世	_____	土器片・黒曜石剥片	表採資料			

例 言

1. 本書は、平成7年度に実施した北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査における「北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査報告書（V）」である。
2. 本年度は、東町・高尾野町の2町を対象とした田畑等の一筆毎の悉皆調査を基本として、必要に応じて聞き取り調査を実施した。
3. 調査に当たっては、各町作成の1万分の1の地形図を利用した。
4. 図中の遺跡地図・地名表は、黒刷りが周知の遺跡を、赤刷りが新発見の遺跡のものである。
5. 執筆・編集は、堂込が行った。

目 次

序 文	
報告書抄録	
例 言	
目 次	
第1章 調査の経過	7
第1節 調査に至るまでの経過	7
第2節 調査の組織	7
第3節 調査の経過(日誌抄)	8
第2章 東町の調査	10
第3章 高尾野町の調査	16

表 目 次

第1表 分布調査の成果	7
第2表 調査日程および調査地区	8
第3表 東町新発見の遺跡地名表	9
第4表 高尾野町新発見の遺跡地名表	9

挿 図 目 次

第1図	東町の遺物	10
第2図	東町の遺跡地図(1)	14
第3図	東町の遺跡地図(2)	15
第4図	高尾野町松ヶ野遺跡の位置	16
第5図	高尾野町松ヶ野遺跡出土遺物	17
第6図	高尾野町出し道遺跡，諏訪下遺跡の位置	20
第7図	諏訪下遺跡の遺物	20
第8図	高尾野町川骨遺跡の位置	21
第9図	高尾野町堂前遺跡，原畑遺跡の位置	23
第10図	高尾野町八幡ノ前遺跡，寺園遺跡，宮園遺跡の位置	24
第11図	寺園遺跡の遺物	24
第12図	高尾野町迫田遺跡，東馬場遺跡の位置	26
第13図	東馬場遺跡の遺物	26
第14図	道下段遺跡の位置	27
第15図	高尾野町の遺跡地図(1)	29
第16図	高尾野町の遺跡地図(2)	30

図 版 目 次

図版1	東町の遺跡《東早尾掛遺跡・菅牟田遺跡・目吹遺跡》	11
図版2	東町の遺跡《魚持A遺跡・魚持B遺跡》	12
図版3	東町の遺跡《淵之上遺跡・広丸遺跡》	13
図版4	高尾野町の遺跡《松ヶ野遺跡・出し道遺跡》	18
図版5	高尾野町の遺跡《出し道遺跡・諏訪下遺跡》	19
図版6	高尾野町の遺跡《川骨遺跡・堂前遺跡・八幡ノ前遺跡》	22
図版7	高尾野町の遺跡《原畑遺跡・寺園遺跡・宮園遺跡》	25
図版8	高尾野町の遺跡《迫田遺跡・東馬場遺跡・道下段遺跡》	28
図版9	東町，高尾野町の遺物	31
図版10	高尾野町の表採遺物	32
図版11	高尾野町，東町の表採遺物	33

第 1 章 調査の経過

第 1 節 調査に至るまでの経過

鹿児島県教育委員会は、北薩・伊佐地区の 4 市 13 町 4 村(串木野市・阿久根市・出水市・大口市・東市来町・市来町・樋脇町・東郷町・鶴田町・宮之城町・薩摩町・祁答院町・里村・上甕村・鹿島村・高尾野町・長島町・東町・野田町・菱刈町)について埋蔵文化財分布調査を平成 3 年度から平成 11 年度にかけて計画した。これは、北薩・伊佐地区の諸開発事業の施行に際して埋蔵文化財保護行政と開発事業との調整に資することを目的とするもので、前年度までの調査計画のほぼ半ばで、1 市 9 町 4 村で合計 361 ケ所の遺跡が発見された(第 1 表)。これらは、早速に西回り自動車道建設やこれに伴う諸開発事業や農業農村基盤整備事業等の協議・調整の資料として活用されている。

第 1 表 分布調査の成果

年 度	対 象 市 町 村	遺 跡 数	実施時期(実働)
平成 3 年度	串木野市・東市来町・市来町	116 遺跡	5 月 7 日～6 月 13 日(28)
平成 4 年度	樋脇町・東郷町・鶴田町	104 遺跡	8 月 3 日～9 月 10 日(21)
平成 5 年度	宮之城町・薩摩町	104 遺跡	7 月 5 日～8 月 12 日(23)
平成 6 年度	甕島(里村・上甕村・鹿島村・下甕村) 長島町・祁答院町	37 遺跡	7 月 4 日～8 月 10 日(24)

調査にあたっては、文化庁全国遺跡分布調査要項(昭和 46 年 4 月)に準拠し、埋蔵文化財を中心に原則として田畑一筆毎の悉皆調査を行い、必要に応じてボーリング調査をするなど精密な分布調査を実施するものである。また、結果については分布図・報告書を作成し関係機関に配布する。

平成 7 年度は、東町と高尾野町の 2 町を対象にして、平成 7 年 11 月 28 日(火)～12 月 22 日(木)にかけて分布調査を実施した。

第 2 節 調査の組織

調査主体者	鹿児島県教育委員会	教 育 長	有 馬 学
調査責任者	鹿児島県教育庁文化課	課 長	立 園 多賀生
調査企画担当者	〃	課 長 補 佐	今別府 修 一
	〃	主任文化財主事	吉 永 和 人
	〃	主任文化財主事兼 埋蔵文化財係長	戸 崎 勝 洋
調査担当者	〃	文 化 財 主 事	青 崎 和 憲
	〃	文 化 財 主 事	堂 込 秀 人
調査事務担当者	鹿児島県教育庁文化課	主幹兼企画文化係長	平 野 誠 一
	〃	主 査	末 吉 博 志

調査にあたっては出水教育事務所をはじめ、東町教育委員会および高尾野町教育委員会の協力を得た。

第2節 調査経過

調査は、東町を2週間、高尾野町を2週間の予定で、東町から調査を行った。東町社会教育課 浜口啓志、高尾野町社会教育課係長 川上義夫の各氏が調査に同行した。報告書作成作業は、県立埋蔵文化財センターで行った。

以下、具体的な調査内容については下表にまとめた。

第2表 調査日程と分布調査地区

月 日	町 村 名	分 布 調 査 地 区	発見遺跡番号
11月28日 ～30日	東 町	釘尾公園・矢堂・菅牟田・野中・宮之浦 諸浦・伊唐島	1～3
12月4日 ～7日	東 町	火ノ浦・瀬戸・山門野上・山門野下・杉の段 犬鹿倉・火川原・毎床牧場・川床・梅ノ木山 獅子島・小坂	4～7
12月11日 ～15日	高尾野町	下高下・唐笠木・千間山・上水流・浦窪・柳ノ水 西辺田・東辺田・木ノ牟礼・木串・南方・太鼓橋	1～5
12月18日 ～21日	高尾野町	中里・麓・唐笠木(東側)・紫引・大久保・松ヶ野 御岳・上り立・野平	6～13

今回の分布調査の結果、東町7遺跡、高尾野町12遺跡の合計19遺跡が新たに追加された。以下一覧表のとおりである。遺跡番号は地図の赤色番号に対応する。これらは周知の遺跡の遺跡番号に継続するものである。

第3表 東町新発見の遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等
1	東早尾掛	東町鷹巣	台地	古墳	土器片
2	菅牟田	〃 鷹巣	台地	縄文	土器片
3	目吹	〃 鷹巣	台地	縄文	土器片
4	魚持A	〃 山門野	台地	縄文	石鏃・黒曜石剥片
5	魚持B	〃 山門野	台地	縄文	黒曜石剥片・土器片(多量)
6	淵之上	〃 山門野	河岸段丘	古墳	土器片
7	広丸	〃 山門野	河岸段丘	縄文・古墳	黒曜石剥片・土器片

第4表 高尾野町新発見の遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等
1	松ヶ野	高尾野町下高尾野	台地	縄文・古墳・中世	石鏃・土器片・青磁(多量)
2	出し道	〃 唐笠木	台地	縄文・中世	黒曜石剥片・土器片・土師器
3	諏訪下	〃 唐笠木	台地	縄文・中世	土器片・土師器
4	白石	〃 江内	谷斜面	縄文	黒曜石剥片・土器片
5	川骨	〃 江内	微高地	縄文・古墳	土器片
6	堂前	〃 紫引	台地	縄文・古墳	黒曜石剥片・土器片
7	八幡ノ前	〃 唐笠木	台地	古墳	土器片・須恵器片
8	原畑	〃 大久保	台地	古墳	土器片
9	寺園	〃 紫引	台地	縄文・古墳	黒曜石剥片・土器片
10	宮園	〃 大久保・紫引	台地	縄文・古墳	黒曜石剥片・土器片(多量)
11	迫田	〃 紫引	台地	縄文・古墳	黒曜石剥片・土器片
12	東馬場	〃 紫引	台地	縄文・古墳	土器片
13	道下段	〃 大久保	台地	縄文・古墳	黒曜石剥片・土器片 下柵迫遺跡と同一

第3章 東町の調査

東町は、鹿児島県の北西部にあり、長島海峡を挟んで北に牛深市と、黒之瀬戸を挟んで東に阿久根市と対峙する長島の東半分と伊唐島・諸浦島・獅子島などの島々からなる。本島と伊唐島が安山岩質の丘陵で、安山岩の風化土壌が薄く覆い、獅子島は化石を多く含む砂岩からなる高峻な山地を形成している。傾斜の緩い丘陵は樹園地を中心に耕地化がすすみ、汐見川の流域の低地は水田として利用されている。ブリ養殖を中心に水産業が盛んである。

東町内のすでに知られている遺跡としては、ナイフ形石器や台形石器が採集された旧石器時代の尻無平遺跡や毎床牧場入口遺跡や、古墳時代の住居跡が発掘調査された山門野遺跡がある。山門野遺跡出土の土器はタタキ成型によって作られた土器であり、中九州との関係の強い土器で注目される。長島は鹿児島県でも古墳の多い場所として知られているが、東町は長島町に比べて数が少なく、横穴式石室が目立ち、六世紀中頃以降のものである。

1 東早尾掛遺跡（図版1）

矢堂から薄井へ向かう道路右手の、台地の南東の縁辺部の標高160m前後のゆるやかに傾斜する南向き斜面に位置する。土器片を採集した。古墳時代の遺跡である。

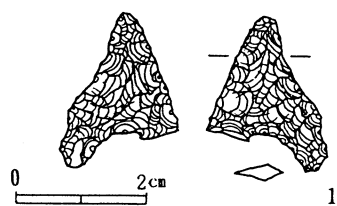
2 菅牟田遺跡（図版1）

菅牟田から宮之浦へ向かう道路の分岐する三叉路の一段高い畑で、標高約80mである。縄文時代の遺跡である。

3 目吹遺跡（図版1）

伊唐島の北部に伸びる標高90mの台地に位置する。土器片を採集した。縄文時代の遺跡であろう。すでに重機によって畑地造成がなされ、道路から東側はもともと尾根状に高く、とくに削平されている。遺物を採集した畑地についても、包含層が削平されている可能性が高い。

4 魚持A遺跡（図版2，第1図）



第1図 出土石鏃

火の浦の漁港を見下ろす北側の標高20m弱の台地縁辺にある。第1図の石鏃と黒曜石剥片と、古墳時代の土器片を採集した。最近、畑地造成され、民家のうしろの事業地区の除外地と考えられる畑地から採集した。この畑地以外は、包含層は残存していない可能性が高い。

5 魚持B遺跡（図版2）

黒之瀬戸大橋から長島へ入り、長島町と東町に分岐する交差点へ向かって右側の、舌状に突き出した標高30mほどの台地に位置する。個人によって重機で畑地造成が行われ、断面に縄文時代の土器片や黒曜石の剥片が観察される。一帯に遺物が散乱しており、台地の北側1/3ほどが残っている。縄文時代の遺跡である。

6 浏之上遺跡（図版3）

汐見川の中流右岸の標高50m弱の河岸段丘で、現在は畑地で、やや東側へ傾斜する。成川式土器の破片を採集した。古墳時代の遺跡である。



東早尾掛遺跡(西から)



菅牟田遺跡(西から)



目吹遺跡(南から)



魚持A遺跡(北から)



魚持A遺跡(東から)



魚持B遺跡(西から)



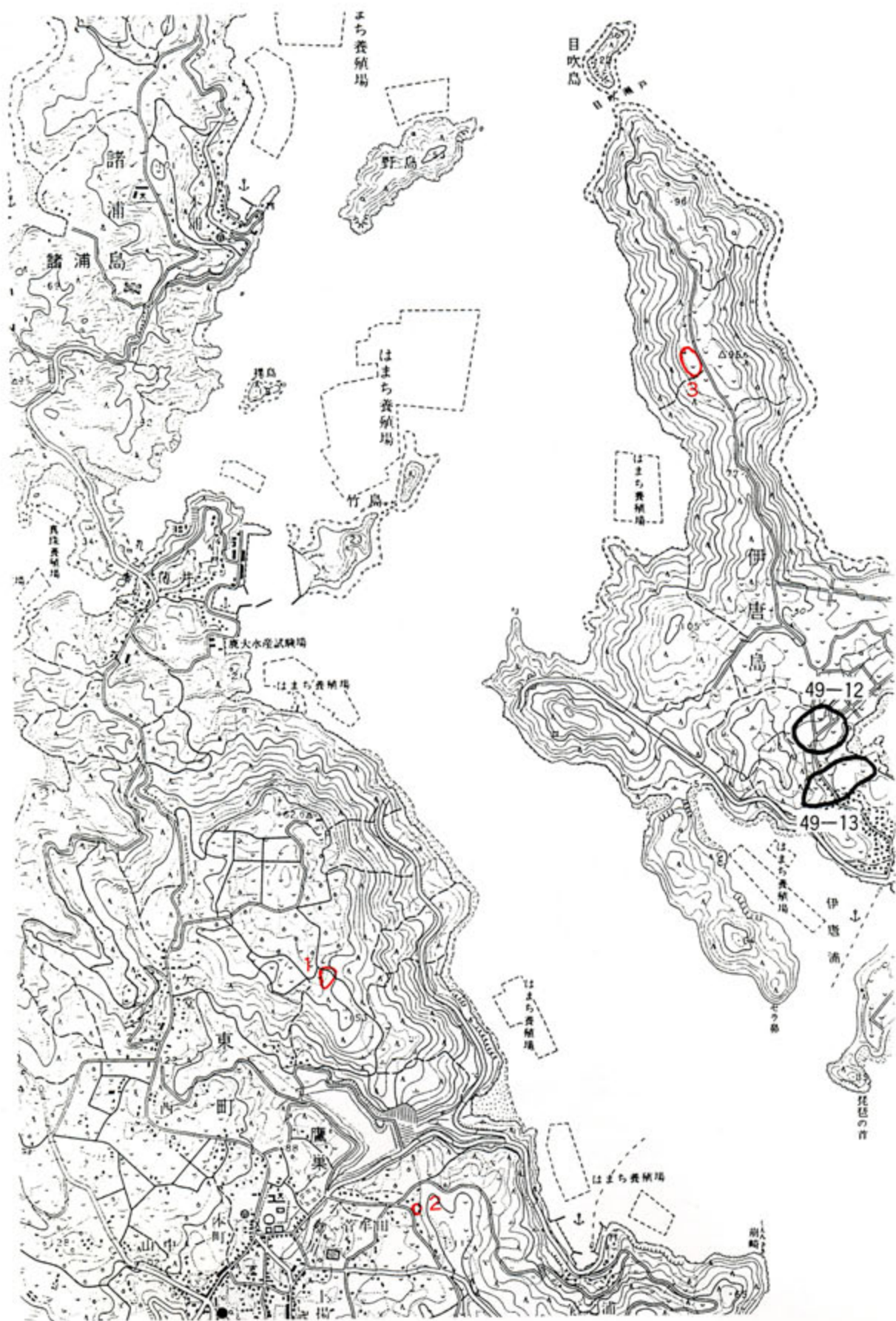
測之上遺跡(東から)



広丸遺跡(南から)

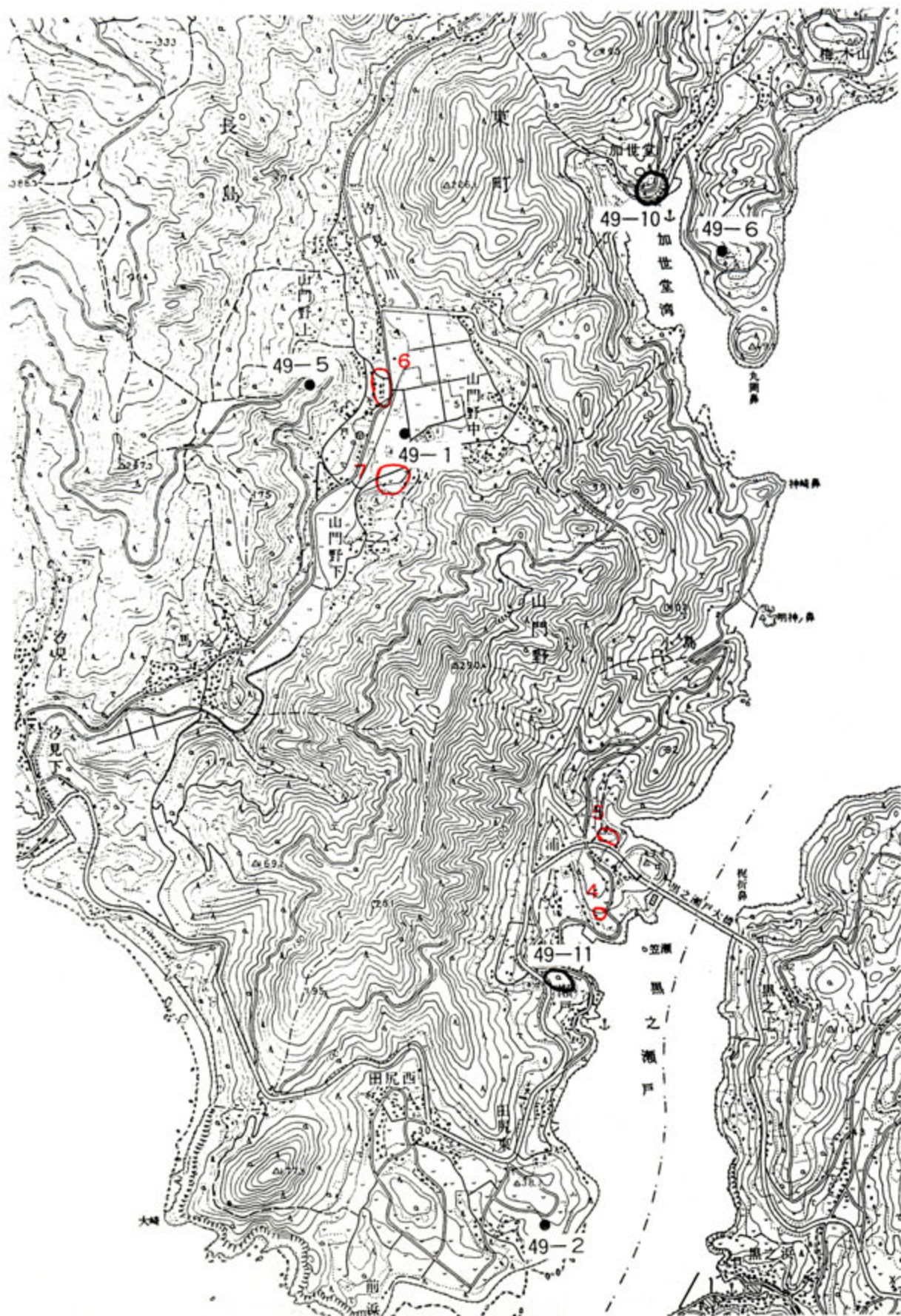


広丸遺跡(北から)



第2図 東町の遺跡地図(1)

「本書に掲載した地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の2.5万分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平8九複, 第147号)」



第3図 東町の遺跡地図2)

「本書に掲載した地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の2.5万分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平8九複, 第147号)」



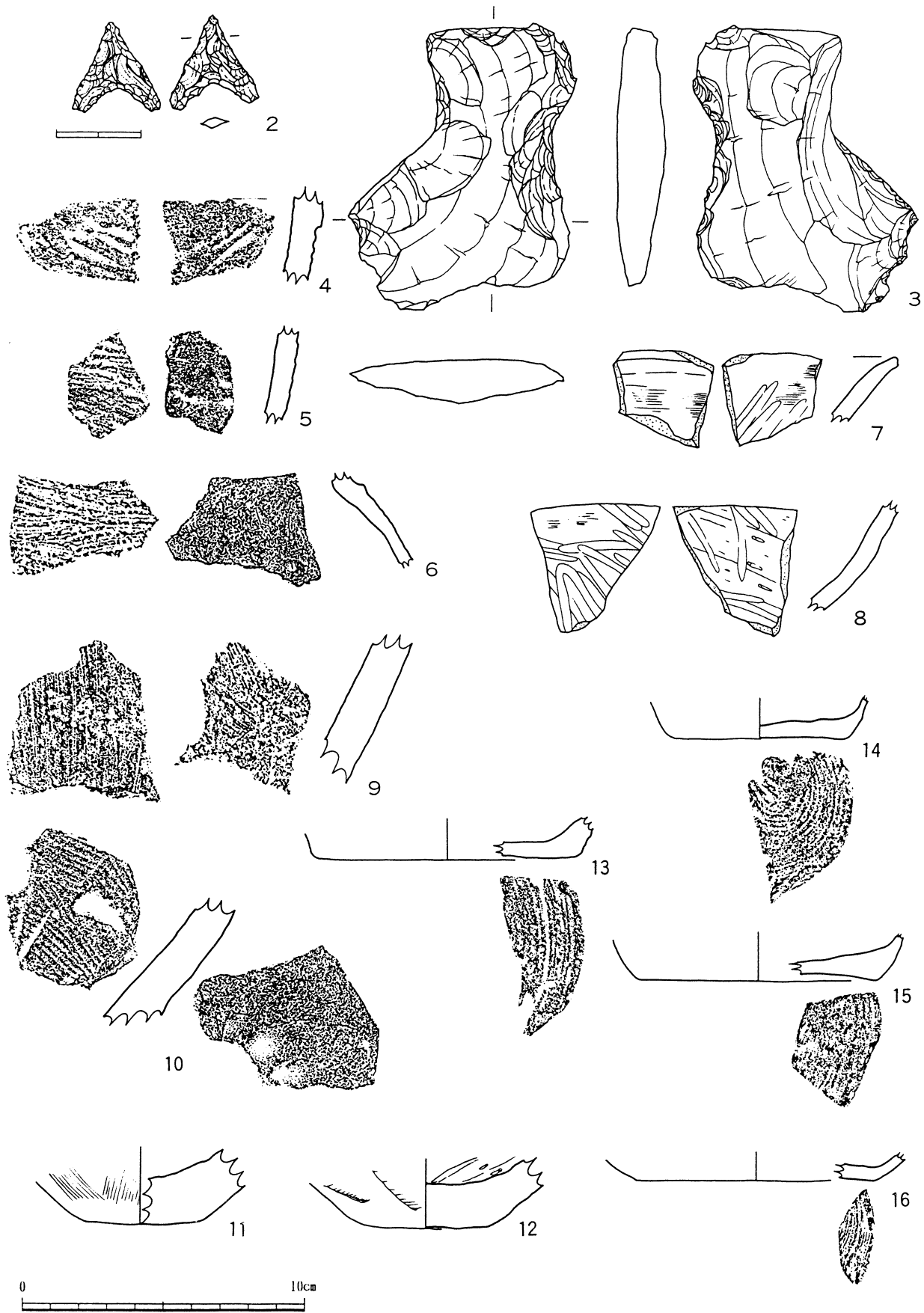
第5図 高尾野町松ヶ野原遺跡の位置

7 広丸遺跡 (図版3)

汐見川の中流左岸の河岸段丘と標高40m～50mの斜面で、斜面部分は段々畑となっている。かつてほ場整備に伴って発掘調査された山門野遺跡のある段丘で、ほ場整備されているが、山裾の水田部分に黒曜石の剥片や土器片が散乱している。遺跡の範囲は水田部分から山門野遺跡まで広がっていたものと考えられる。縄文時代～古墳時代の遺跡であろう。

第4章 高尾野町の調査

高尾野町は出水郡の南東部に位置し、紫尾山を主峰とする出水山地から流下する高尾野川が作った扇状地を中心とする。南部は険しい山岳地帯、北部は低平な干拓地がひろがる。その中間は高尾野川と野田川の沖積低地を除くと、広大な扇状地で遺跡の立地には適している。扇状地に特徴的な砂礫層が主体で、土壌は鹿児島島の他の地域に比べると発達して薄く、島津氏が最初に入ったといわれる木牟礼城跡があり、中世も交通の要所であったものと考えられる。他に江内貝塚・柿



第5図 高尾野町松ヶ野遺跡出土遺物



松ヶ野遺跡(南から)



松ヶ野遺跡(西から)



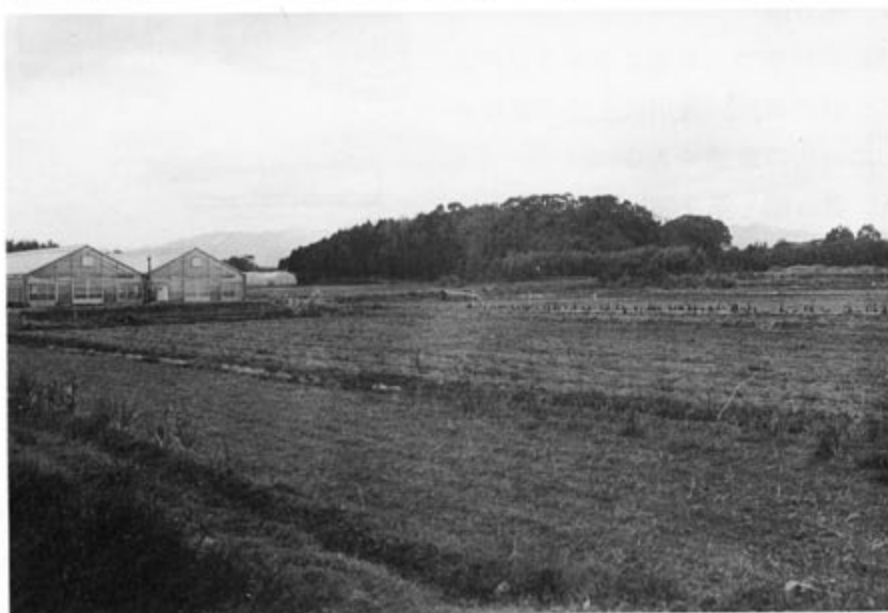
出し道遺跡南側(東から)



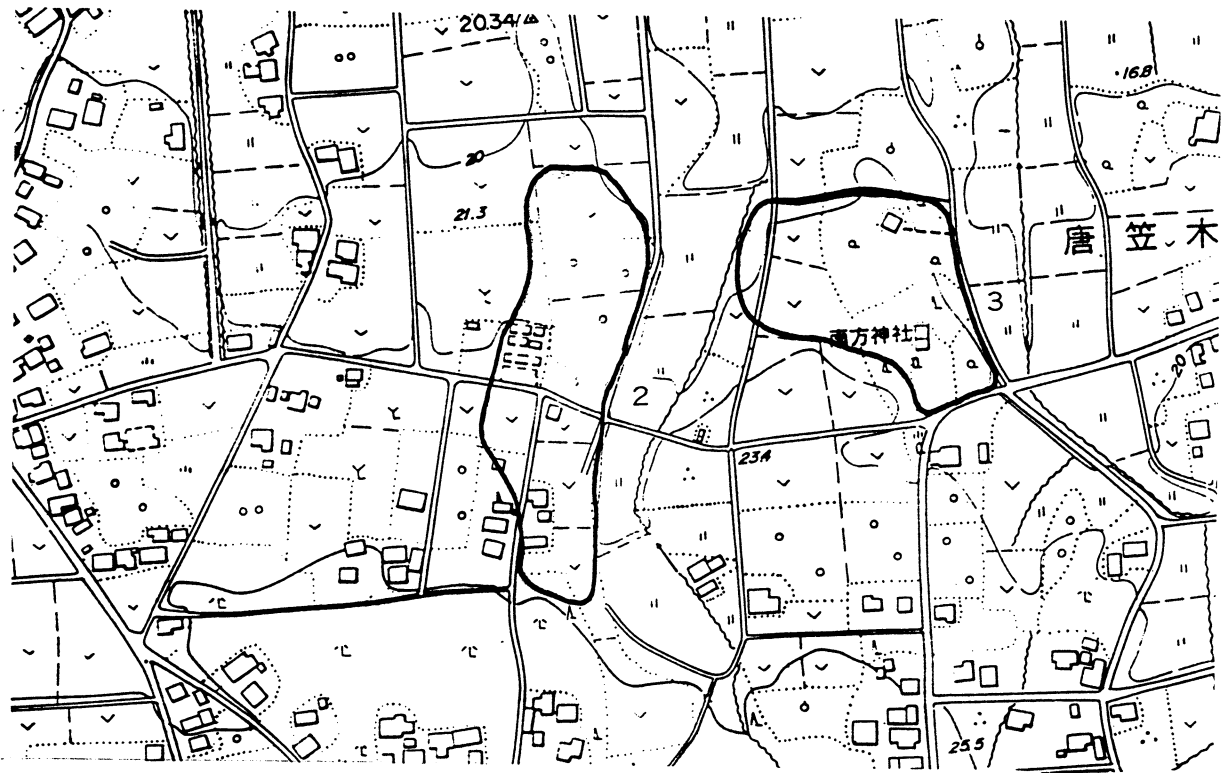
出し道遺跡北側
(東から)



諏訪下遺跡(南から)



諏訪下遺跡(北から)



第6図 出し道遺跡，諏訪下遺跡の位置

内遺跡などの縄文時代の遺跡や堂前古墳などがある。

1 松ヶ野遺跡 (図版4, 第4図・第5図)

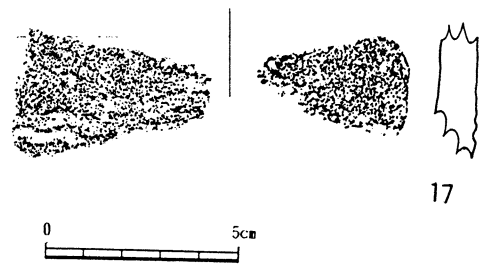
野田川の右岸の標高25m前後の台地に位置する。南向きに傾斜する畑地で、すでに畑地整備が行われている。庭木の抜根跡などに、多量に広範囲に遺物が採集できる。2～16が採集した遺物で、2が頁岩製の石鏃、3が打製石斧である。4は貝殻円筒形土器で、縄文時代の早期の土器である。5～8 縄文時代晩期の土器片である。9～12が古墳時代の土器片で、9・10が甕形土器の胴下半部、11・12が壺形土器の底部である。13～16は土師器の小皿で糸切り底である。縄文時代～中世の遺跡である。

2 出し道遺跡 (図版4, 第6図)

扇状地の中央部標高21mの台地で、東側に小さな谷が入る。黒曜石の剝片と縄文土器の破片、成川式土器の破片を採集した。縄文時代と古墳時代の遺跡である。

3 諏訪下遺跡 (図版5, 第6図・第7図)

南方神社の境内を含む台地で、標高21m前後の畑地にある。境内の東側に土師器の破片が散布している。北側は重機により畑地造成がおこなわれ、その断面から17を採集した。縄文時代早期の貝殻円筒形土器の破片である。また西側部分の庭木の植えてある畑にも、縄文時代前期と判断できる小破片を採集した。縄文時代と中世の遺跡である。



第7図 諏訪下遺跡の遺物

4 白石遺跡

高尾野町立江内小学校の北側の、江内川の支流の白石川の左岸の標高5m～10mの斜面で、江内貝塚の対岸である。かつて潮線が近くまで入り込んでいたことが想定され、貝塚を形成している可



第8図 川骨遺跡の位置

能性もある。水田の畦を中心に土器片が散布しており、江内貝塚と一体の遺跡として今後検討を要する。縄文時代の遺跡である。

5 川骨遺跡（図版6，第8図）

江内の木牟礼城跡の東側の、標高8m前後の舌状に伸びた台地の先端部分に当たる。岩下川の左岸である。城跡はシラス取りにより壊滅したが、縄張りの一部にあたる可能性もある。縄文時代の土器片と成川式土器の破片を採集した。縄文時代から古墳時代の遺跡である。



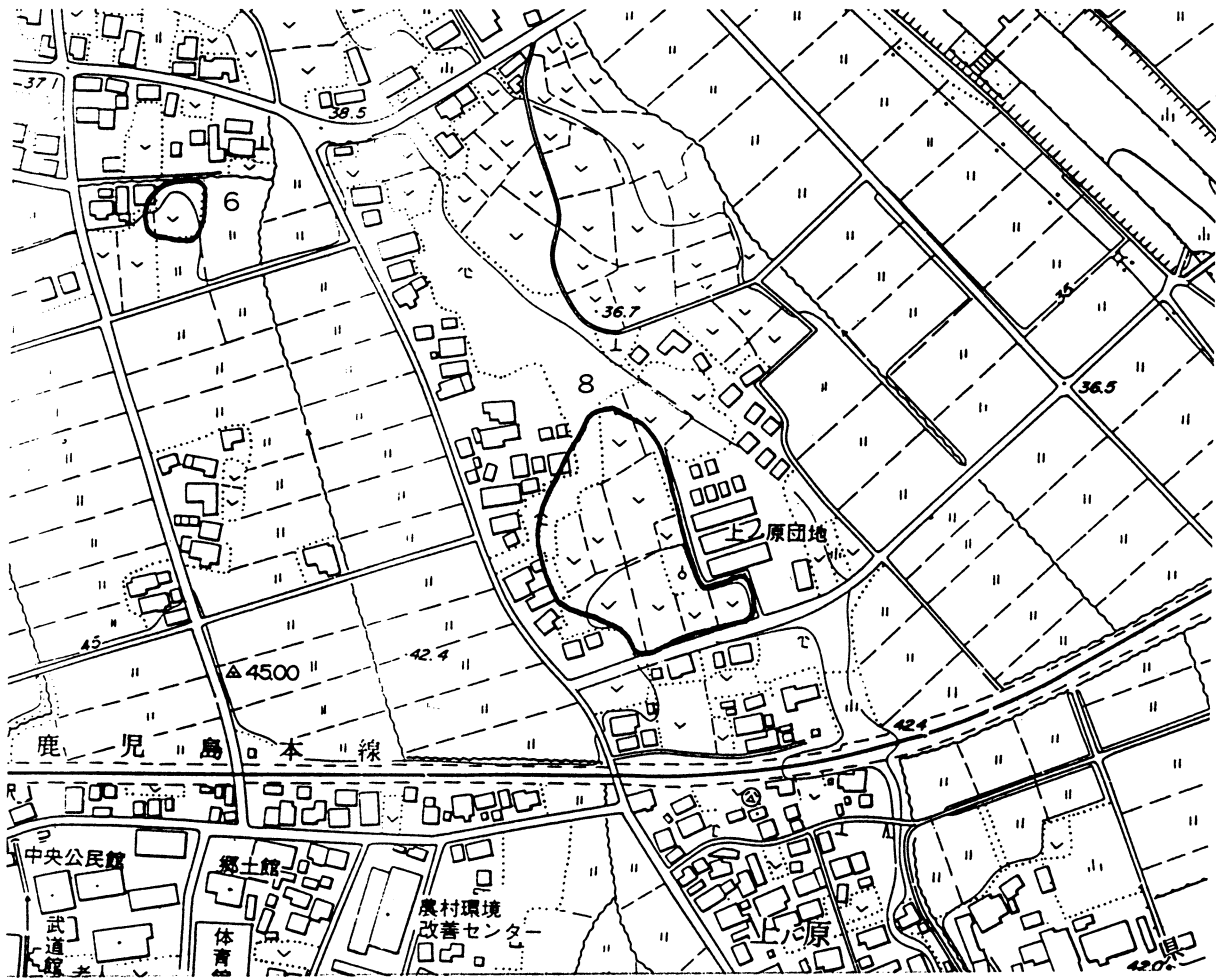
川骨遺跡(南から)



堂前遺跡(南から)



八幡ノ前遺跡(南東から)



第9図 堂前遺跡、原畑遺跡の位置

高尾野川の左岸の、標高30～35mで細長く北西から南東に伸びる台地に、6堂前遺跡から10宮園遺跡が立地している。東側の下の、ほ場整備が済んだ水田との比高は5～10m程度である。縄文時代の中里遺跡や堂前古墳もこの中にあり、全体が遺跡群としてとらえられる。市街地となっており、遺跡範囲は細かくわかれたが、いずれの畑でも、土器の破片は大きく割れ口も摩耗がなく、包含層が良好に残っているものと考えられる。

6 堂前遺跡 (図版6, 第8図)

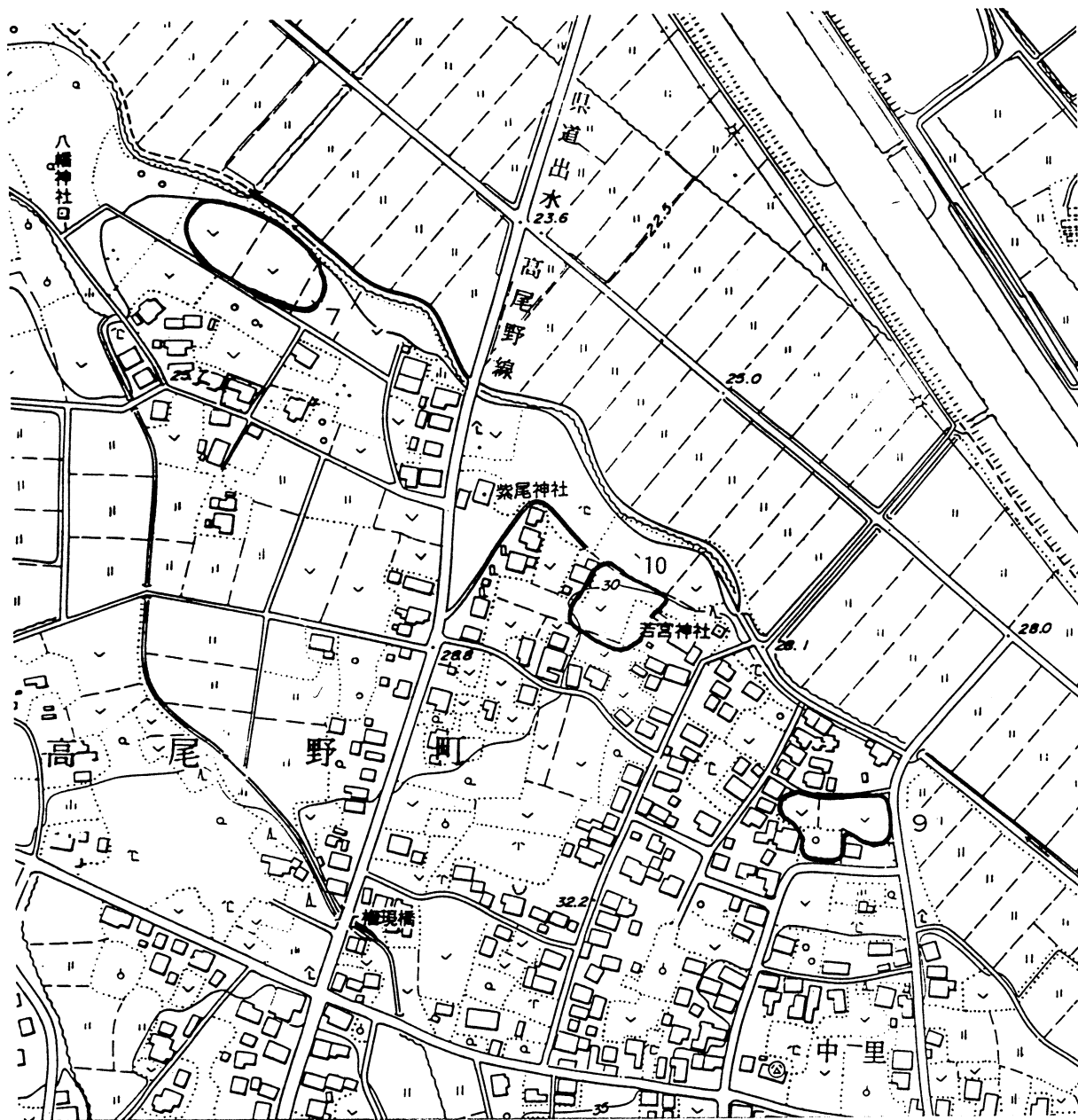
紫引の北部分の鹿児島本線の北側の、標高40m前後の微高地の南端部分である。市街地化しており、遺跡の範囲が絞りにくく、広がる可能性がある。黒曜石の剥片と成川式土器の土器片を採集した。古墳時代の遺跡である。

7 八幡ノ前遺跡 (図版6, 第10図)

高尾野川の左岸の沖積台地の東側縁辺で、八幡神社の南東側の標高30m弱の畑地にある。古墳時代の土器片・須恵器片を採集した。古墳時代の遺跡である。

8 原畑遺跡 (図版7, 第9図)

鹿児島本線の北側の、町営上ノ原団地のある標高40m弱の台地一帯に広がる。古墳時代の成川式土器の破片を採集した。古墳時代の遺跡である。



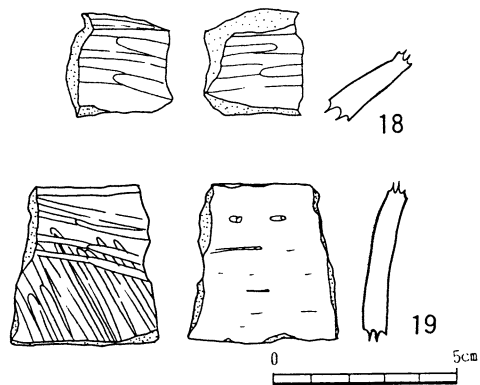
第10図 八幡ノ前遺跡，寺園遺跡，宮園遺跡の位置

9 寺園遺跡 (図版7, 第10図・第11図)

標高30m 強の住宅に囲まれた畑地に，遺物が散布していた。縄文時代晩期の遺物を中心に，黒曜石の剥片と土器片等を採集した。出土遺物の一部が第11図である。いずれも黒色研磨土器である。条痕を残す粗製の鉢形土器の破片もあり，その他に成川式土器の破片も採集した。縄文時代から古墳時代の遺跡である。

10 宮園遺跡 (図版7, 第10図)

若宮の北側の標高30m 前後の台地縁辺に位置する。黒曜石の剥片と土器片等を採集した。縄文時代から古墳時代の遺跡である。



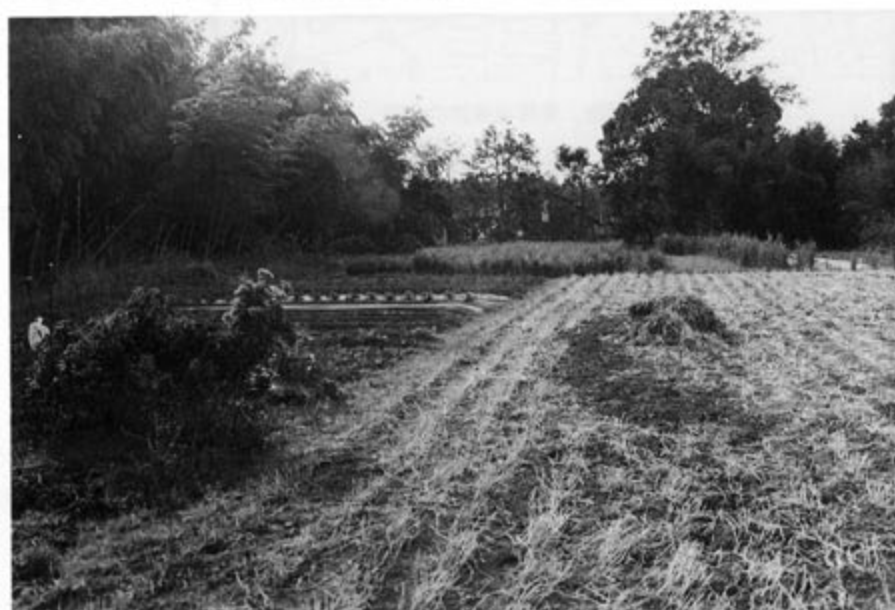
第11図 寺園遺跡出土土器



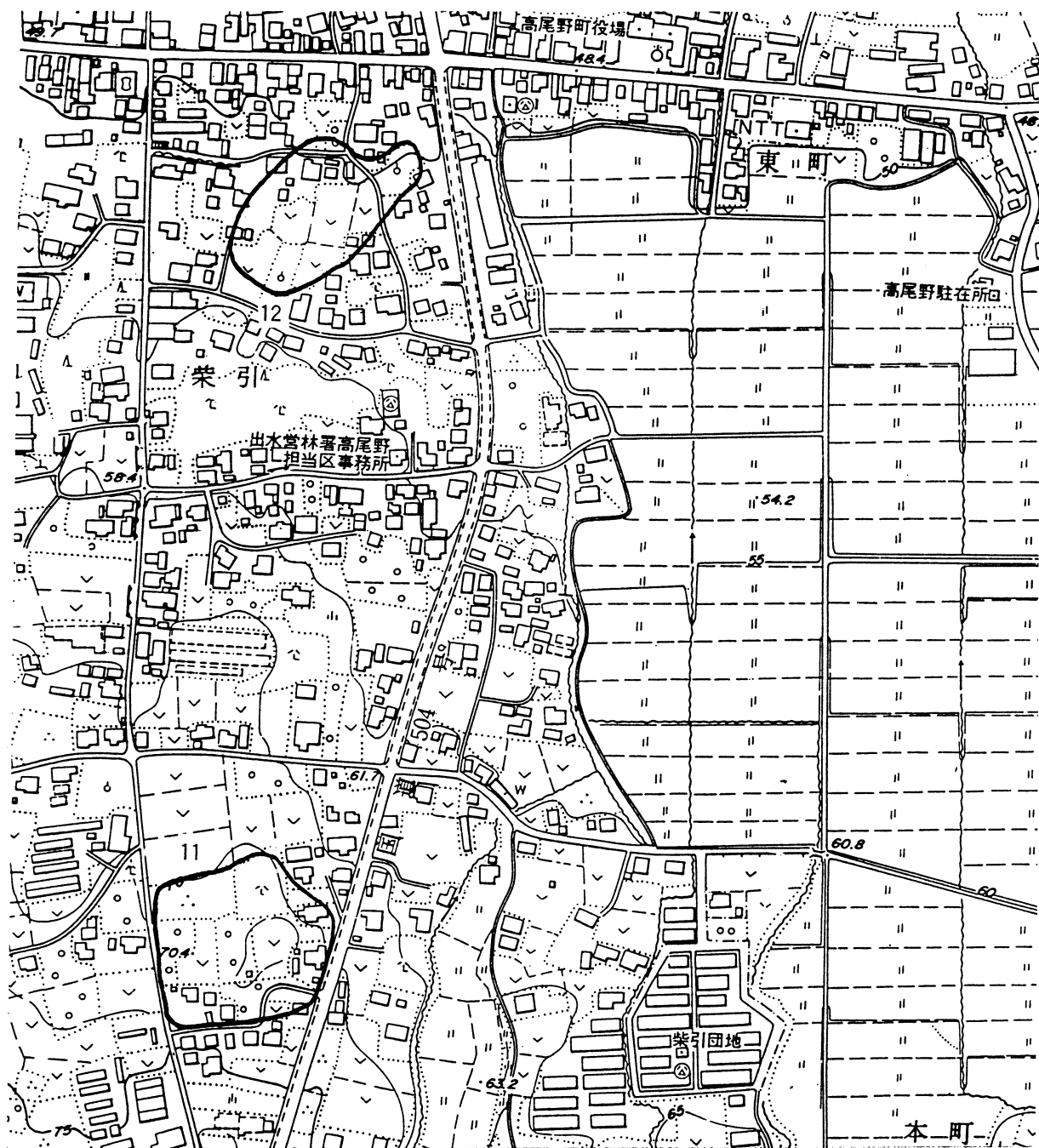
原畑遺跡(南から)



寺園遺跡(北から)



宮園遺跡(北から)



第12図 迫田遺跡，東馬場遺跡の位置

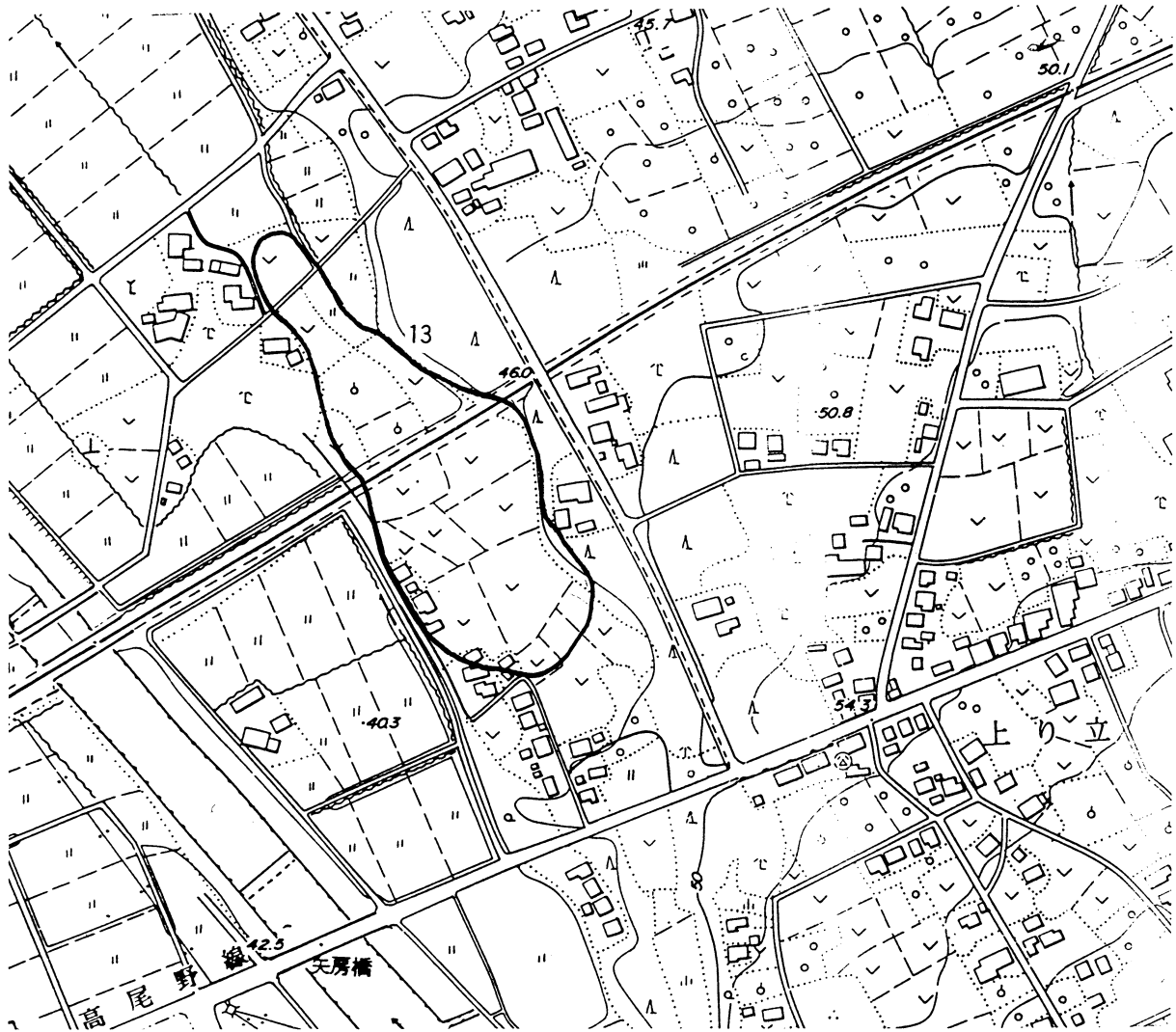
扇状地の中心部分である紫引の市街地部分は、鹿児島本線を挟んで、下高尾野遺跡群と紫引遺跡群として、遺跡範囲が大きくくくられている。畑地整備が進んでおり、この遺跡範囲がどの程度周知されているか不安が残る。この紫引遺跡群の東側，台地東側の縁辺に迫田遺跡と東馬場遺跡が存在する。

11 迫田遺跡 (図版8, 第12図)

国道540号線の西側の標高70mの畑地に、黒曜石の剥片と土器片等を採集した。特に古墳時代の成川式土器片が大量に散布している。



第13図 東馬場遺跡出土遺物



第14図 道下段遺跡の位置

北側は畑地造成が行われ、2～3m下がって削平されており、北側には広がらないと判断した。縄文時代から古墳時代の遺跡である。

12 東馬場遺跡 (図版8, 第12図・第13図)

県道出水高尾野線の南側の市街地において、調査で確認した範囲は第12図であったが、その後今までの調査を踏まえて、遺跡地図の範囲とした。標高58mの台地東側の縁辺に位置する。東側の低地との比高差は、3m程である。縄文時代と古墳時代の土器片を採集した。縄文時代から古墳時代の遺跡である。

13 道下段遺跡 (図版8, 第14図)

鹿児島本線の南側で、平成7年度に確認・全面の発掘調査が行われた鹿児島本線をの北側の下柵迫遺跡とつながる標高45m前後の沖積台地に立地する。同一遺跡であり、遺跡名は検討したい。下柵迫遺跡では縄文時代晩期の遺場が中心に出土しており、道下段遺跡も同様の遺跡であることが予想される。黒曜石の剝片と縄文時代と古墳時代の土器片を採集した。縄文時代から古墳時代の遺跡である。



追田遺跡(南から)



東馬場遺跡(北から)



道下段遺跡(東から)



第16図 高尾野町の遺跡地図2)

「本書に掲載した地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の2.5万分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平8九複, 第147号)」



魚持A遺跡
出土遺物 (1)

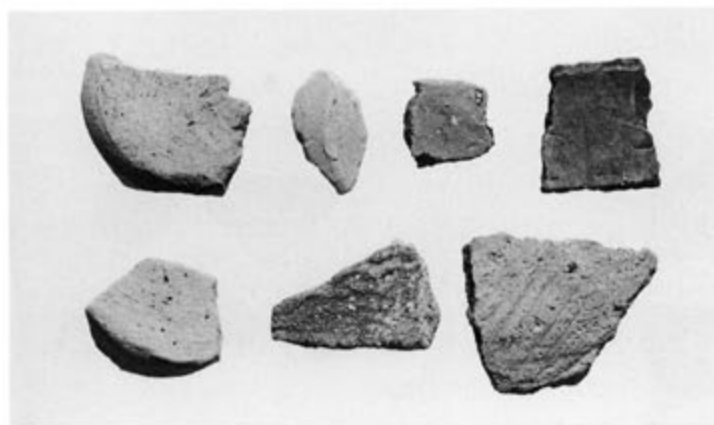
松ヶ野遺跡
出土遺物 (2)



松ヶ野遺跡
出土遺物 (3~7)



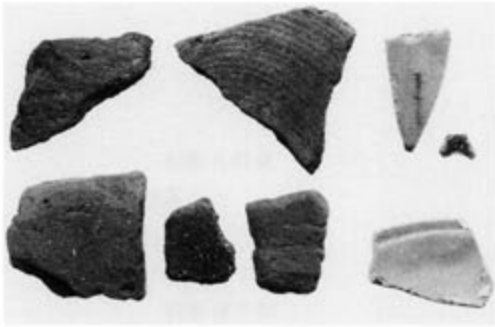
同 上 (8~13)



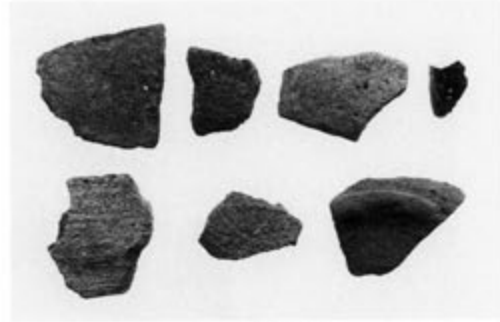
松ヶ野遺跡
出土遺物 (14~16)

諏訪下遺跡
出土遺物 (17)

寺園遺跡
出土遺物 (18・19)



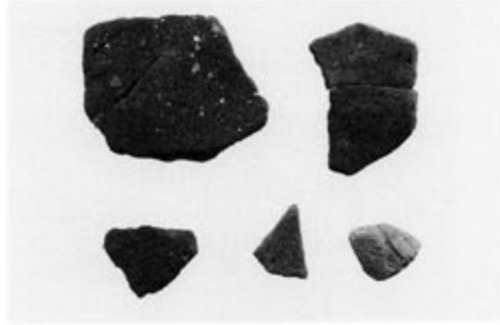
1. 松ヶ野遺跡



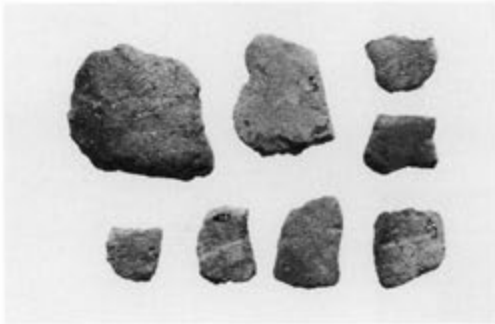
2. 出し道遺跡



3. 譚訪下遺跡



4. 白石遺跡



5. 川骨遺跡



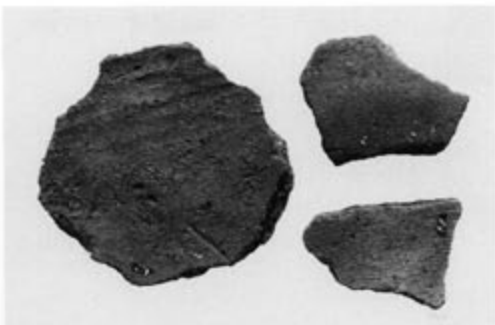
6. 堂前遺跡



7. 八幡ノ前遺跡



8. 原畑遺跡



9. 寺園遺跡



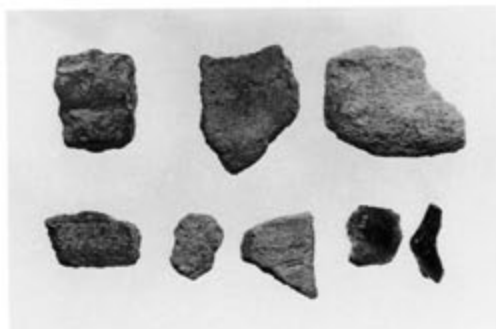
10. 宮園遺跡



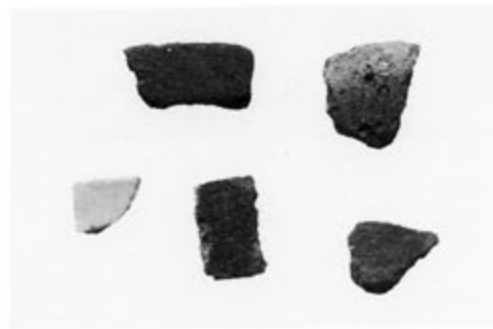
11. 迫田遺跡



12. 東馬場遺跡



13. 道天段遺跡



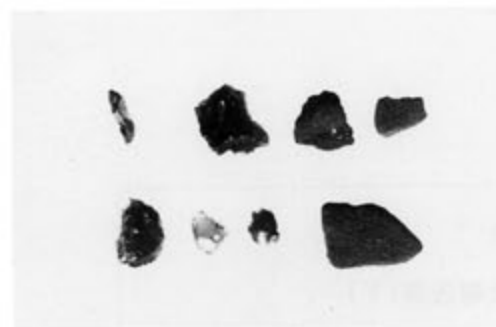
1. 東早尾遺跡



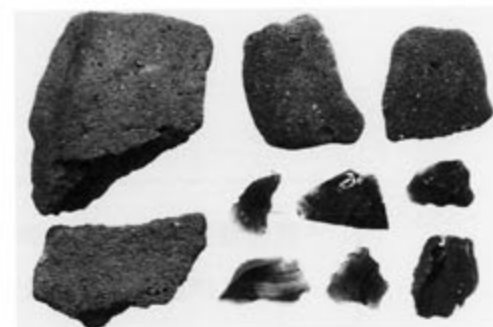
2. 菅牟田遺跡



3. 目吹遺跡



4. 魚持A遺跡



5. 魚持B遺跡



6. 洲之上遺跡



7. 広丸遺跡

鹿児島県埋蔵文化財調査報告書(71)

北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査報告書(V)

発行日 平成8年3月

発行者 鹿児島県教育委員会 〒892鹿児島市山下町14-50

印刷所 アルプス印刷株式会社

住 所 鹿児島市星ヶ峯2-18-12